

ディプロマ・ポリシー (DP)

人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に学位を授与する。

【知識・理解】

DP1：健康薬科学の領域における知識と問題解決能力を習得する。

【技能】

DP2：将来も自らが研鑽し、より高度な知識・技能・態度を身につけようとする意欲を養う。

【態度・志向性】

DP3：薬学を通して、国民の健康維持に積極的に貢献する姿勢を有する。

*3つのポリシー DPと

特に強く関連：◎ 強く関連：○

科目	部門	授業科目名	単位数	配当年次	期別	知識・理解	技能	態度・志向性
						DP1	DP2	DP3
選択授業科目		薬学概論	2	1	前期	◎		○
		創薬科学特論	2	1	前期	◎		○
		先端創薬科学トピック特論	2	1	前期	◎		○
		生命科学トピック特論	2	1	前期	◎		○
		最新薬物治療学特論	2	1	前期	◎		○
		感染症特論	2	1	前期	◎		○
		治験・臨床開発特論	2	1	後期	○		◎
		医療コミュニケーション学特論	2	1	後期	○		◎
		先端医療トピック特論	2	1	後期	○		◎
		医薬品情報学特論	2	1	後期	◎		○
		疾患薬理学特論	2	1	後期	◎		○
		環境科学トピック特論	2	1	後期	○		◎
専修 授業科目	医薬品素材学	医薬品素材学演習	6	1~2	2年通年	◎	◎	
		医薬品素材学特別実験	12	1~2	2年通年	◎	◎	
	生体分子情報学	生体分子情報学演習	6	1~2	2年通年	◎	◎	
		生体分子情報学特別実験	12	1~2	2年通年	◎	◎	
	生体分析学	生体分析学演習	6	1~2	2年通年	◎	◎	
		生体分析学特別実験	12	1~2	2年通年	◎	◎	
	薬理学	薬理学演習	6	1~2	2年通年	◎	◎	
		薬理学特別実験	12	1~2	2年通年	◎	◎	
	分子医学	分子医学演習	6	1~2	2年通年	◎	◎	
		分子医学特別実験	12	1~2	2年通年	◎	◎	
	薬剤学	薬剤学演習	6	1~2	2年通年	◎	◎	
		薬剤学特別実験	12	1~2	2年通年	◎	◎	
	創剤学	創剤学演習	6	1~2	2年通年	◎	◎	
		創剤学特別実験	12	1~2	2年通年	◎	◎	
	医薬品設計学	医薬品設計学演習	6	1~2	2年通年	◎	◎	
		医薬品設計学特別実験	12	1~2	2年通年	◎	◎	
	実務薬剤学	実務薬剤学演習	6	1~2	2年通年	◎	◎	
		実務薬剤学特別実験	12	1~2	2年通年	◎	◎	

「①修了要件」

※修士課程又は博士課程前期の修了の要件は、大学院に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。（ただし、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。）

DPに示す資質・能力を有していると認められるものに学位が授与される。

「②必要修得単位」

必修科目：18単位（専修科目の演習6単位および特別実験12単位）

選択科目：特論のうちから12単位以上

※必修科目と選択科目の取得単位の合計が30単位以上

※一つの専修部門を選定し学生の専修科目とする。

※専修科目の演習担当者を指導教員とし、授業科目の選択、学位論文の作成、研究一般等について指導を受ける。

「③科目分類の説明」

特論・・・自身の研究領域に関連のある課題、あるいはその他興味深い最新の話題について学習する。

専修科目演習・・・専修科目における担当教員より指導を受け、研究課題に関する実験実施計画の作成や実験結果の考察、実施計画の調整変更などを行う。

専修科目特別実験・・・専修科目における担当教員より指導を受け、研究課題に関する実験実施計画に基づいて実験を行う。

「④年次ごとのスケジュール」

1年次：研究指導教員の提案や意見を参考として、研究課題、方向性を協議する。また、課題に関連した先行研究の文献などを調査して、その新規性、独創性、および学術的価値などを吟味し、具体的な研究課題を決定する。4月中に研究課題に関する計画を立案し、実験を開始する。また、初年度は選択科目から、学位申請の要件となる単位分の科目を履修する。必要に応じて、どのような科目を履修するかを研究指導教員に相談する。

2年次：上記の指導体制の下で引き続き研究を遂行する。研究指導教員の承認を得た上で、学位申請に必要な修士学位論文を作成し、1月初旬を期限として提出する。学位論文の作成に関しては、研究指導教員から内容および構成について指導を受ける。1月下旬～2月初旬に開催される修士論文発表会にて、総括された研究成果を発表する。修士論文発表会では、薬学研究科通常委員会の構成員により評価を受ける。